

令和4年度 宍粟市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

2 認知症地域支援推進員の役割

①地域住民への認知症の正しい理解の啓発

認知症に関する講演会や講座の開催、市の取り組みの周知

認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の開催支援、認知症キャラバン・メイト連絡会の開催
チームオレンジの立ち上げ

②認知症ケアの質の向上

認知症介護専門職研修の企画、調整

③多職種連絡会の企画、調整

認知症施策検討会

④認知症の人やその家族への支援

認知症の人やその家族に対する相談支援、家族の集いの開催

オレンジカフェ（認知症カフェ）の運営支援、オレンジカフェ連絡会等の開催

認知症初期集中支援事業の推進

高齢者等見守り支援（SOS登録）や高齢者声かけ訓練・伝達訓練の実施

⑤認知症ケアパスの見直しと普及、リーフレット作製

報告者氏名：吉田典子 菅谷美佳 取越かおり

宍粟市 認知症施策全体図

認知症の人や家族が 安心して暮らせるまちをめざして



認知症施策の推進

認知症施策検討会

適時・適切な医療・介護等の提供

相談窓口の普及・啓発
認知症地域支援推進員の配置
認知症初期集中支援チーム
認知症予防健診

人材育成

認知症介護専門職研修

予防

フレイル・認知症予防運動教室
認知症予防講座、講演会

家族介護者への支援

オレンジカフェの普及、啓発
オレンジカフェ連絡会
当事者、介護者の集い開催

普及・啓発活動

認知症講座・講演会
認知症に関する取り組みの周知

認知症サポーターの養成・活用

認知症サポーター養成講座
認知症サポーターステップアップ講座
認知症キャラバン・メイト連絡会
チームオレンジの立ち上げ

ひとり外出見守り・SOSネットワーク

GPS機利用支援
見守りSOSネット
SOS協力機関伝達訓練
高齢者声かけ訓練

権利擁護

成年後見センターとの連携



標題 宍粟市における認知症カフェの取組

当市では認知症カフェを「オレンジカフェ」と呼んでいます。オレンジカフェに対し助成事業はなく、ほとんどのカフェがボランティアで開催されており、認知症の人やその家族、また地域の人が気軽に集える場所となっています。

オレンジカフェを新規開設するときは

- スタッフは認知症サポーター養成講座を受講する
- 認知症に関する相談を受けたとき、必要時に関係機関又は行政につなぐことができる



現在市内では11か所のオレンジカフェが登録されています。新型コロナウイルス感染拡大防止のためほとんどのカフェが一時活動を休止しました。まだ再開できていないカフェも多数ありますが、「今、必要だから」という思いで工夫して開催しているカフェを紹介します。

標題 宍粟市における認知症カフェの取組

1 オレンジカフェ ホット・カレン

平成29年2月開設。ボランティアで配食サービスや地域の高齢者の見守り活動をされていたグループが、オレンジカフェに賛同される。

コロナ禍で会場の広さを確保するため生活支援コーディネーターが支援し場所を変更したり、主催者の思いに賛同した地域の企業や施設が協力して運営しているカフェ。

開設当初からカフェ参加者の送迎の課題があった。地域から認知症の当事者はもちろん、高齢者が公共交通を利用してカフェに参加することは難しかった。生活支援コーディネーターが地元の企業等と連携し協力してもらえることになった。

会 場 地域貢献として、地元企業の会議室を無料で使用

送 迎 地域貢献として、地元の特別養護老人ホームのデイサービス送迎車の空き時間を利用して送迎

当日は送迎車には必ずカフェスタッフが同乗しています。約10人のスタッフがそれぞれ役割を持ち、協力して進行しています。15~20人の参加者を迎え、忙しい時もスタッフはずっと笑顔でおられます。カフェスタッフも、協力している企業、老人保健施設の人も「この地域のためだから」と笑顔で取り組んでおられます。

主催者は「チーム ホット・カレンだよ」と言って楽しそうに活動されています。



標題 宍粟市における認知症カフェの取組

2 川上さん横の花菜畑

令和4年5月開設。自宅の庭と畑を開放した花畑を見る屋外カフェ。4月～10月に月1回開催。参加者は庭のテントの下でお茶を飲んだり談笑し、野山に咲く様々な花を見ながらのんびり過ごすカフェ。

主催者は「参加した人たちがとても楽しそうで、自分の趣味だったものがみんなに喜んでもらえることがとてもうれしかった。」と話しておられた。色とりどりに咲く花を見ながら、近所の人にも気軽に声をかけたり、座り込んで話したりしています。（開催日が雨天の場合は中止）



• 最後に・・・

コロナ禍となってから、人が集ったり一緒に食事をしたりすることが制限され、カフェ活動が困難になりました。それでもカフェの主催者はその必要性を感じ、それぞれに工夫し、また地域の方たちの協力もあり、様々な人と人がつながって集いの場所が再開されてきています。そして参加者、関係者みんなの笑顔が素晴らしい。参加していると、こちらも楽しく幸せな気分になります。みんなで認知症の事を理解し、共生を目指す地域づくりに今後も関わっていきたいと思います。